

中国景気概況(2021年9月)

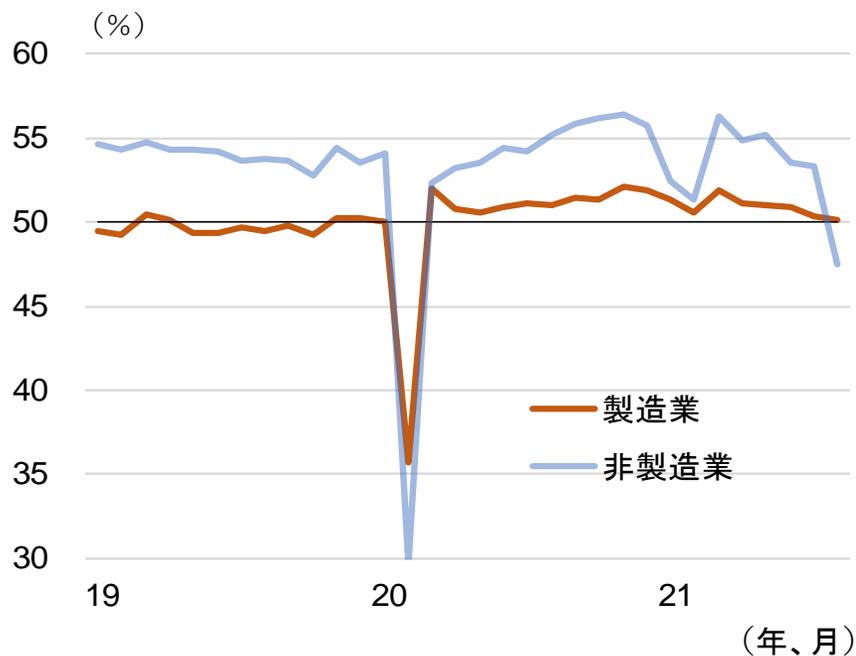
2021年9月2日

調査部 研究員 丸山 健太

PMIは低下も、景気は緩やかな拡大が続く

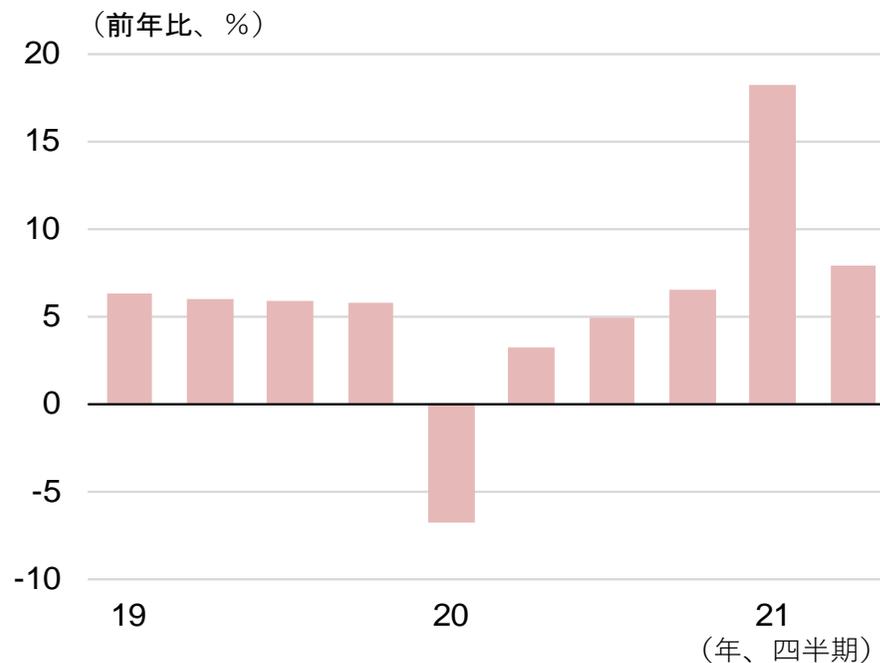
8月のPMIは製造業が50.1、非製造業は47.5と低下し、非製造業は景況感の境目である50を下回った。新型コロナ感染拡大や水害などの影響が大きかった。もともと、景気への影響は一時的であり、中国経済は緩やかな拡大が続いている。なお、7月に公表された2021年第2四半期の実質GDPは、前年比+7.9%と大幅な増加が続いたが、季節調整後の前期比は+1.3%(年率換算値+5.3%)と、サービス消費などの回復が遅れ、コロナ前の勢いを取り戻すには至っていない。

PMI



(出所) 国家統計局

実質GDP(四半期)

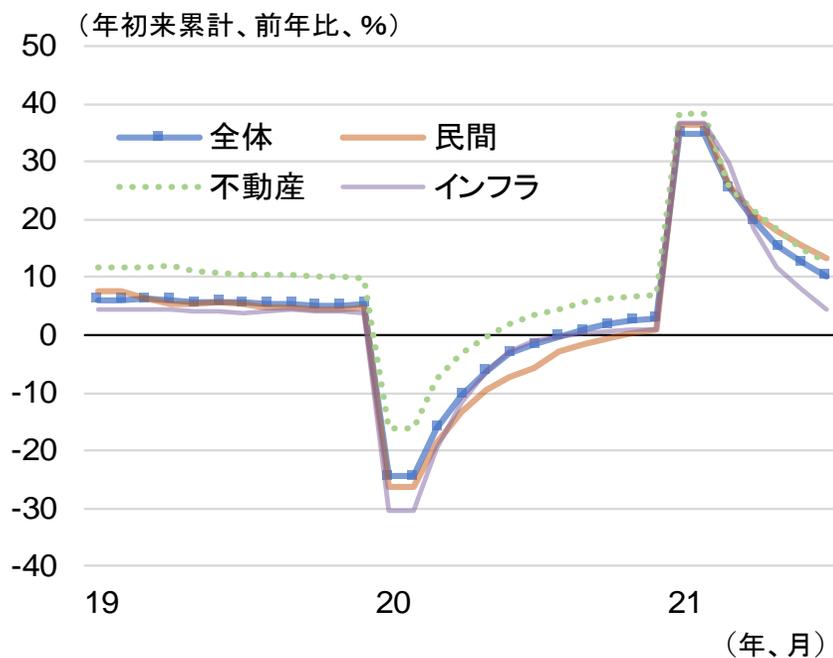


(出所) 国家統計局

固定資産投資、生産は増加

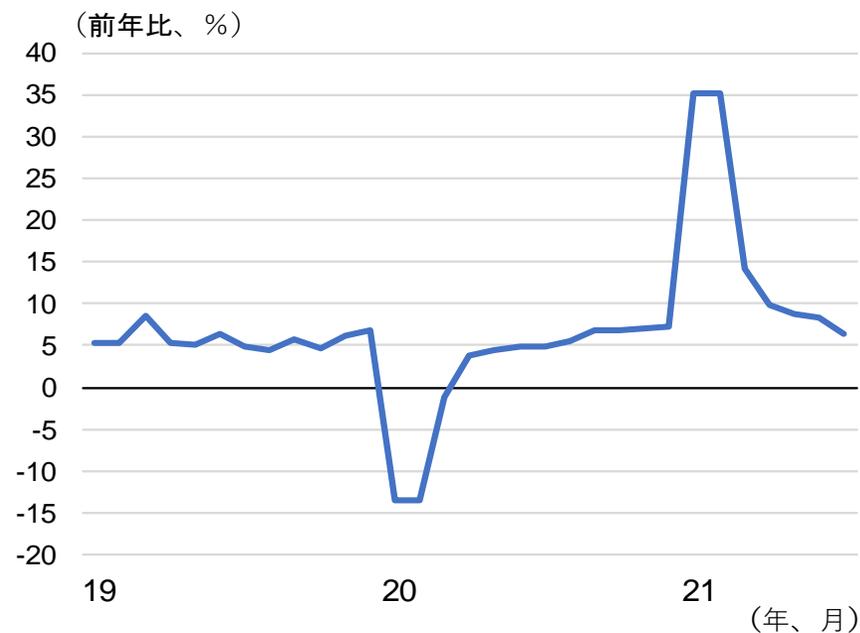
7月の固定資産投資(年初来累計値)は、前年比+10.3%と増加が続いた。民間投資(前年比+13.4%)、不動産投資(同+12.7%)、インフラ投資(同+4.6%)がいずれも増加した。また、7月の工業生産も前年比+6.4%と増加が続いた。原材料価格が高騰している鉄鋼や、半導体不足で減産を余儀なくされた自動車で前年割れしたものの、医薬品やコンピューターなどの増加が全体を押し上げた。

固定資産投資



(出所) 国家統計局

工業生産



(出所) 国家統計局

消費は回復に足踏み、物価は持ち直し傾向

7月の小売売上高(名目)は前年比+8.5%と高い伸びが続くが、前月比は-0.1%と6ヶ月ぶりに減少した。7月下旬からの感染拡大と行動制限や、台風による水害の影響もあり、宿泊や飲食などサービス消費の回復が遅れている。もっともワクチンの接種が進んでいること、また水害の影響は一時的であることから、今後、サービス消費も回復が期待される。

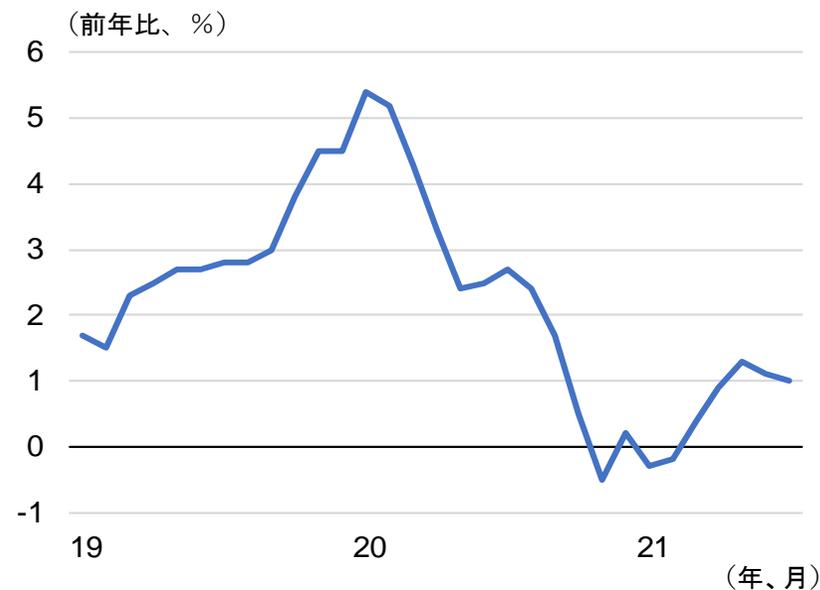
7月の消費者物価上昇率は前年比+1.0%と上昇が続いた。航空券、ガソリン・軽油の上昇が全体を押し上げた。

小売売上高(名目)



(出所) 国家統計局

消費者物価指数



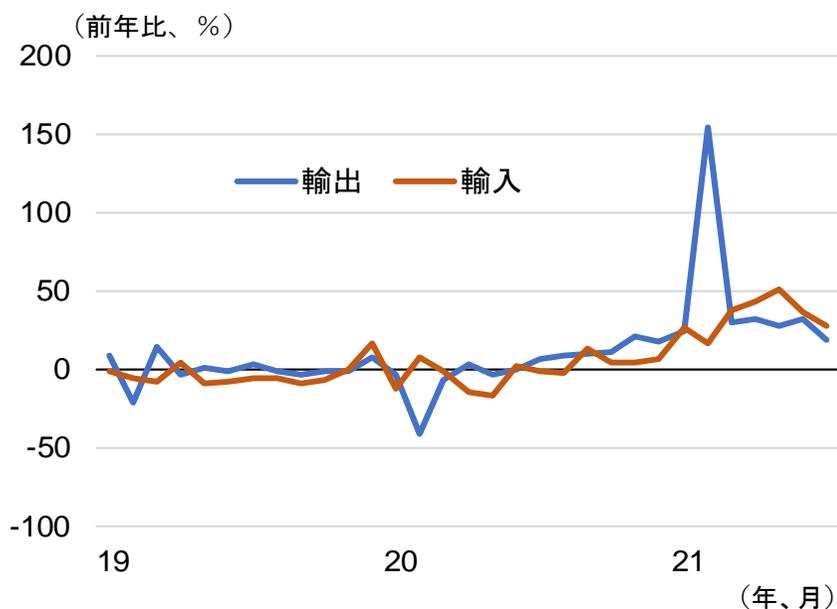
(出所) 国家統計局

輸出入とも増加が続く

7月の輸出は前年比+19.3%、輸入は同+28.1%と増加が続いた。貿易黒字は566億ドルと、前年同月(623億ドル)から縮小した。輸出は、品目別では半導体など電子部品の寄与が、地域別では米国やASEAN向けの寄与が、それぞれ大きかった。また輸入は、価格上昇が目立つ原油、鉄鉱石や、需要が底堅い電子部品が大きく増加した。

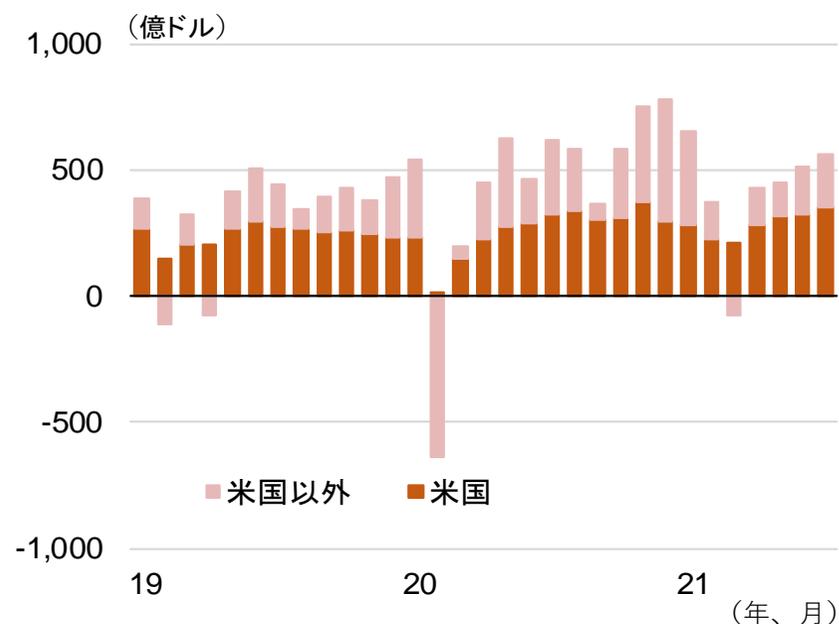
貿易収支は、対米国の黒字幅は前年同月から拡大したが、対オーストラリアなどの赤字幅拡大が大きかった。

財輸出入



(出所) 海関総署

貿易収支



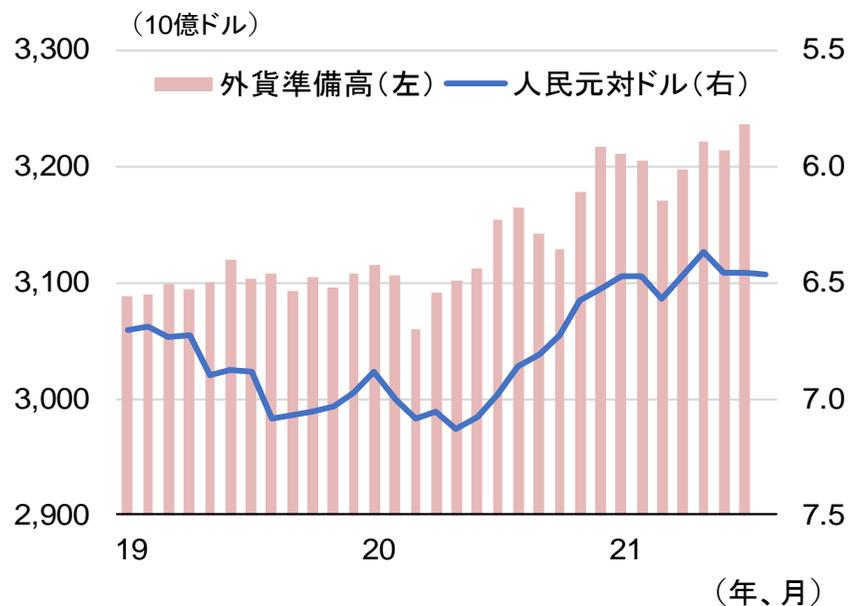
(出所) 海関総署

為替は横ばい、株価は下落後上昇

人民元の対ドルレート(8月末値)は1ドル=6.47元と、横ばいで推移した。8月中旬には中国株の下落を受け、1ドル=6.51元までドル高・元安が進んだが、その後株価の回復とともに、元高方向に戻した。7月末時点での外貨準備高は3兆2359億ドルと、2ヶ月ぶりに増加した。

8月の上海総合株価指数は、景気減速懸念から一時的に下落したが、感染拡大懸念が後退し、月末にかけて上昇した。

外貨準備高



(出所) 中国人民銀行

上海総合株価指数

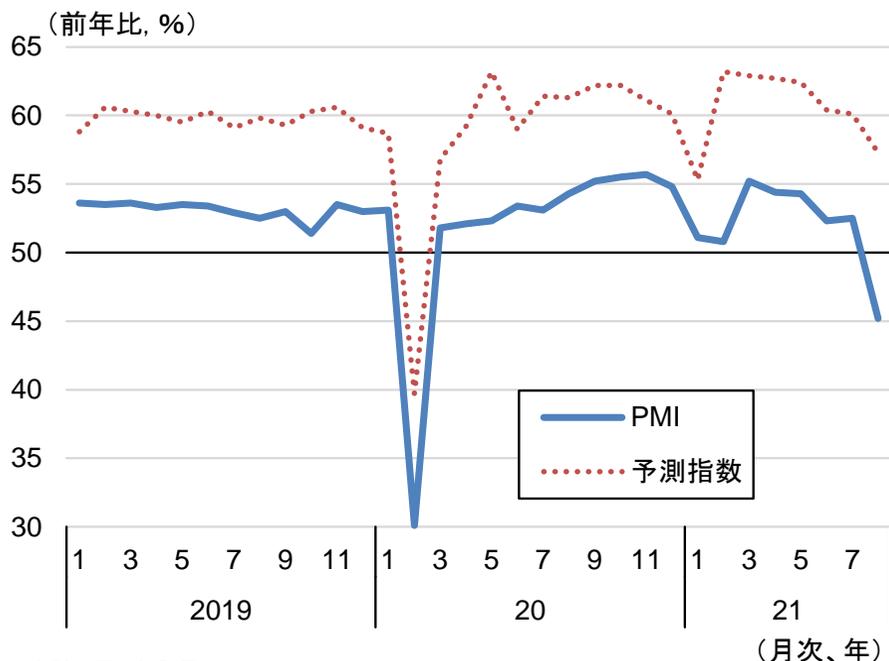


(出所) 上海証券交易所

非製造業減速の背景に、新型コロナ感染拡大と水害

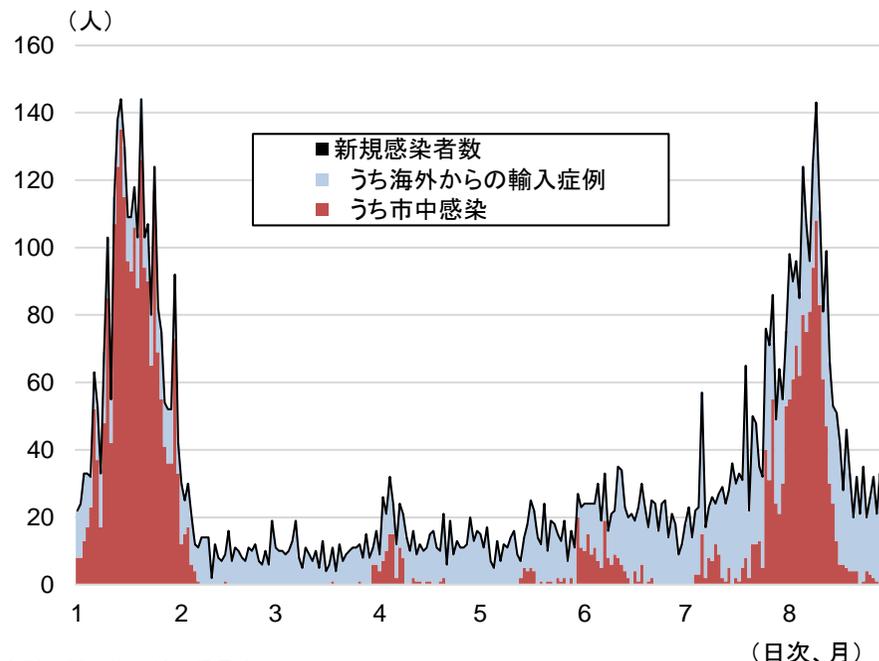
2021年8月の非製造業PMIは47.5と、コロナ禍が最も深刻だった20年2月以来、1年半ぶりに景況感の境目である50を下回った(1頁参照)。7月下旬からの新型コロナ感染拡大と、7月中旬に河南省を襲った水害の影響があったとみられる。非製造業の中でも、これらの影響が直撃した宿泊・飲食サービスなどを含むサービス業では、PMIの落ち込みも特に大きかった(左図)。一方、先行きは、8月末までに新型コロナの市中感染を抑え込んだこと、中秋節(9月)や国慶節(10月)といった連休を控えていることから、予測指数はやや低下したが高水準を維持するなど、楽観的な見方が広がっている。

サービス業のPMIと予測指数



(出所) 国家統計局

新型コロナウイルス新規感染者数

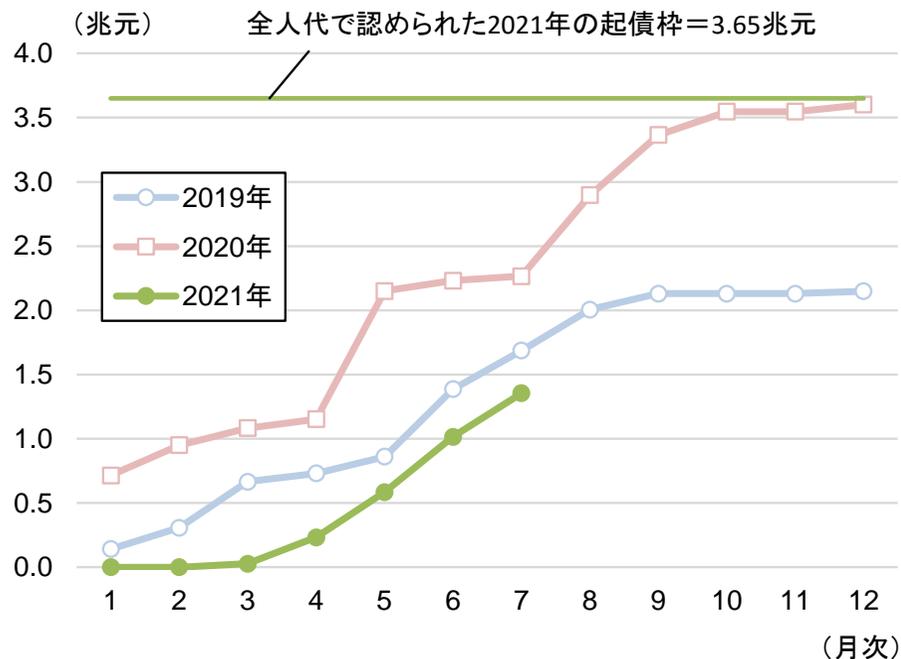


(出所) 国家衛生健康委員会

インフラ債券の発行加速で、21年後半はインフラ投資増加の可能性も

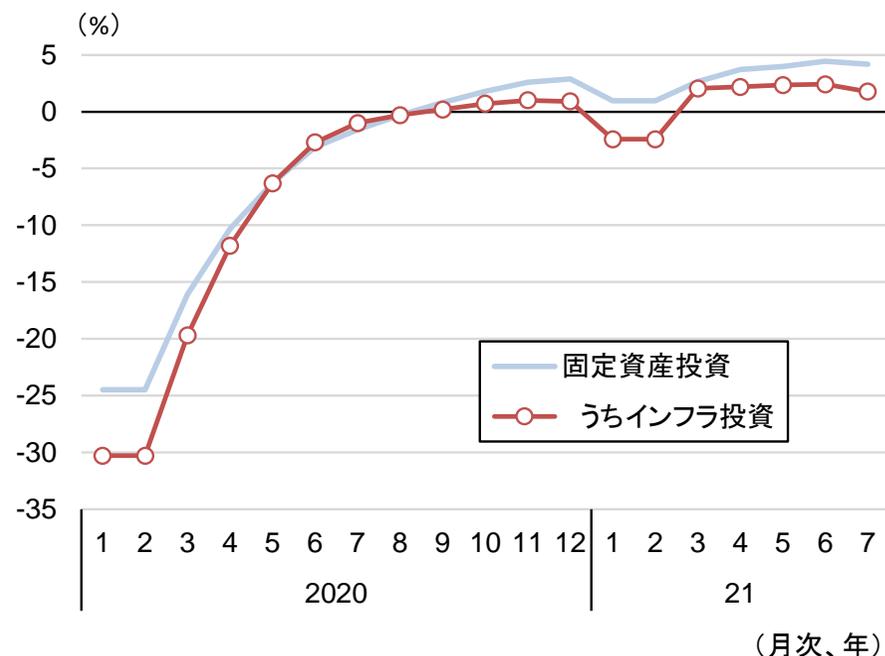
8月27日、財政部は「2021年上半期中国財政政策執行状況報告」の中で、地方政府の「隠れ債務」リスクに注意しつつ、地方のインフラ投資目的の特別債である専項債（インフラ債券）の発行を適度に加速させる方針を示した。足元まで、中央財政当局がリスク軽減のため債務の管理を強化する中、インフラ債券の発行は遅れ（左図）、インフラ投資は冴えない動きが続いている（右図）。新型コロナウイルス感染拡大などで景気減速が懸念される年後半は、インフラ債券の発行が加速し、インフラ投資が景気を下支えすることが期待される。

インフラ債券の新規発行額（年初来累計）



（出所）財政部

固定資産投資の成長率（年初来累計）



（注）2020年は前年比、21年は19年対比の年平均成長率
（出所）国家統計局

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 丸山 TEL:03-6733-1630 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください